

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400201		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム グレース (西)		
所在地	奈良県生駒郡平群町大字越木塚336-1		
自己評価作成日	平成25年12月	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2971400201-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2971400201-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた豊かな自然の中で四季の移ろいを感じることが出来ます。平屋の玄関を入ると広々としたホールで利用者様がソファに座りテレビを観たり、居眠りをしたりと、それぞれにくつろいでおられます。認知症の軽度な方から生活全般に於いて介助が必要な方までその人らしい生活ができるように支援をさせて頂いています。生活スペースも広く車椅子や歩行器による生活も可能となっています。また、併設施設があり、医療体制、職員の研修 などの協力体制もできています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が豊かな生駒山の高台に位置するホームは、多くの外出の機会を持ちながら利用者が四季折々に季節を感じながら過ごせるよう支援しています。天気が良い日はホーム周辺を散歩したり、季節に応じた初詣や花見、ミカンやイチゴ狩り、足湯などに出かけ、行事によっては家族にも声をかけ共に外出を楽しんでもらっています。運営推進会議ではテーマを決め消防署長や訪問リハビリの医師に参加を依頼したり、家族会と合わせて開催することもあり、参加者を固定せずホームの運営や課題について共に考える有意義な会議となっており、多彩なボランティアの来訪に繋がっています。経年の中で利用者の重度化も進み、利用者や家族の意向を受けて、医師の判断の下に関係者で方向性を話し合い、ホームでできる看取りの支援にも取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、職員で考えた5項目を全員で共有できるようにホーム内に掲示しています。また理念に基づいた目標も掲示して職員全員の意識を統一している	職員間で話し合いユニット毎に作った理念と数項目からなる具体的な目標があり継続しています。地域交流やその人らしい生活、笑顔などを盛り込んだ理念と目標は玄関やリビングの見やすい場所に掲示し意識づけを行っています。	理念と目標を見やすい場所に掲示されていますが更に意識づけや浸透できるように会議の場などで話し合う機会を持ち、全職員が同じ方針を共有できるよう取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家が遠く離れており交流がもちにくいため、ホームでのイベント開催を機に地域住民のボランティアさんとの交流を図っている	民謡や似顔絵、手品や音楽など地域の多彩なボランティアの来訪が多くあり、利用者の楽しみや交流できる機会となっています。月に1度来てもらっている地域のパン屋を利用したり、利用者と一緒に地域の店へ買い物に出かけ交流できるよう努めています。また家族を招いて行う交流会などに地域の方の参加を得ることもあり、交流の機会が持てるよう工夫しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への啓発活動は行っていませんが、日常的な付き合いの中で認知症の理解を深めていただく為、相談援助等を心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っている。ホームの近況や取組を報告し、参加者との活発な意見交換しサービスの向上に努めている	会議は家族代表や民生委員、地域住民や町役場の職員などの参加の下に毎回テーマを決めて開催しています。消防署長に来てもらい防災について話を聞いたり、家族会と合わせて開催することもあり、ホームの運営に興味や関心を持ってもらえるよう工夫しています。ボランティアの情報もらい多くのボランティアの来訪に繋がるなど、運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点があれば、町の介護保険課や地域包括支援センターに連絡を取り確認をとっています。事故の報告も速やかに連絡するようにしています	運営推進会議に町の担当者の参加を得ており、ホームの実状を知ってもらっています。日頃から分からない事等があれば、電話や窓口に出向き相談に乗ってもらっており、協力を得ながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周辺環境を考慮し安全第一と考えると無施錠は難しいが閉鎖感のない取組をしています。身体拘束については併設施設との合同研修により職員の理解を深め実践している	多くの職員が身体拘束に関する研修を受講し身体拘束について理解を深めています。玄関は家族の理解を得て安全の為に施錠していますが、外出したい方には職員が付き添ってホーム周辺を散歩するなど、利用者の行動を制止することなく自由に過ごしてもらえるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設との合同研修への参加により学ぶ機会を設け職員同士がお互いに注意を払うようにしている		

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている利用者がおられます。学ぶ機会ですが、今は権利擁護に関する研修を行っていませんので今後は併設施設との合同研修会にも策定してもらえるように働きかけます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間にゆとりをとり説明し不安や疑問があれば十分に説明を行うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会で家族の方が話せる場を用意したり年に1回家族アンケートを実施し、意見や要望を聞かせて頂いている	家族の来訪時に職員が声をかけたり、面会が少ない家族には電話をかけて意見や要望を聞いています。また年に1度の家族会の開催や運営推進会議、利用者アンケートも実施しており、意見を出せる機会が多くあります。出された意見はその都度速やかに対応し運営に活かしています。アンケートの結果については報告を予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見交換をしている。施設長も会議には出席し職員の意見、提案を伝えている	行事やレクリエーションごとに担当を決めており、職員は担当を通して積極的に意見や提案を出し、充実したレクリエーションの実施に繋げています。今後は会議を確実に実施し、更に職員間で意見を出し合いながら情報を共有できるよう取り組んでいきたいと考えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時間を見つけて現場にきており業務や現状を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設との合同研修や、専門職としてのライセンスの取得に働きかけを行い専門職としてのレベルが保てるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は併設施設との合同研修や勉強会に参加して交流の機会を得ている。管理者は、近隣施設へ訪問して情報を得ている		

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談をし家族やケアマネから情報を得て本人との関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望により面談場所を決めて今までの経緯など家族のお話を聞くようにしています。ケアマネからも情報を得るようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人やが家族の思いを聞き、今の状態を把握しより良い支援ができるように必要であれば医療や他の施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で家事などを共に行いお互いに協力して会話などしながらで和やかに生活できるような場を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出、外泊などの協力や行事参加の声掛けをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会 外食やドライブなど関係がとぎれないようにしている	訪ねてきた教会の友人と一緒に外出したり、家族と共に自宅に戻る利用者は外出に向けて家族との連絡や調整などを行い、外出がスムーズに行くよう支援しています。気に入った美容室へ通えるよう送迎を支援したり、自宅が気になる方と家の様子を見に行くこともあります。希望があればできる限り支援したいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用部分のホールでのレクリエーションに参加することでお互いに関心をもてるようにしている		

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談を受けるようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣等を大切にし普段の過ごし方や、そのときの状態を把握している	入居時に利用者や家族から身体状況や性格、これまでの生活歴や希望などを直接聞いたり、以前のケアマネジャーからも情報をもらい思いの把握に繋がっています。入居後はコミュニケーションを取る中で本人に直接聞いたり、伝えることが困難な方は利用者の様子や言動などを記載した日々の記録から読み取ったり、職員からも情報をもらい思いが把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談を通して家族や本人から今までの生活歴を聞く。入居してからは、折に触れては本人から話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中で職員の気づきを大切に して一人ひとりのできることを把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ショート会議を必要時に行い意見交換をしながら現状把握をしている。モニタリングは3月に1度行っている	本人や家族から話を聞いた内容を基にアセスメントを行い介護計画を作成しています。利用者の状況に合わせて3~6ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヵ月から1年で介護計画を見直しています。見直しの際には再アセスメントを行い、本人の思いと共に面会時や電話で聞いた家族の意向、職員に聞いた内容などを集約し、利用者の現状に合った介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録は毎日実施して、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の意向に沿った物品購入の代行や美容院への外出介助、家族の状況に応じた通院介助をおこなっている		

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のように多種にわたっての地域資源の活用はできないが、地域のボランティアの来訪によりできる限りの支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃からかかりつけ医と連絡をとり受診や往診を受けられるようにしている。基本は家族による受診だが家族の状況により受診に同行するなど柔軟な対応をしている	かかりつけ医を継続している利用者は家族や職員が受診に付き添い、受診結果はその都度家族と確認し合い共有しています。ホームの協力医は個々の利用者の状態や体調の変化に合わせて往診してもらっています。緊急時は24時間連絡がとれる訪問看護師の指示をもらい対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に相談し助言を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添ったり、職員がお見舞いに行き担当の看護師から情報を得るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を迎えた場合には、その都度家族に意向を聞き確認をとっている	看取りの支援については家族の関心も高く、その都度家族に確認を行いながら支援しています。医療が必要でない場合はこれまでに看取りの支援の経験があり、医師の判断の下に本人や家族、看護師、職員など関係者で方向性を話し合い、ホームでできる支援を行っています。職員もホームの方針を理解しており、方針を共有し支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルをステーションに掲示しているが定期的な訓練は行えていないので併設施設との研修策定に加えてもらうようにする		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣に住居がないために地域との協力体制はとれないが防災訓練を定期的に行って防災にたいする職員の意識を高めている	年2回施設全体で日々昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報や消火器の場所の確認や避難誘導などを利用者と一緒にしています。また今年度は運営推進会議の場に消防署長に来てもらい、防災について話をしてもらっています。近隣に住宅がなく地域との協力体制については課題と考えており、今後は運営推進会議の場で参加者の協力が得られるよう声掛けを予定しています。	

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、排泄、更衣の際に細心の注意をはらってプライバシーの保護をしている	プライバシーや接遇に関する研修を受講し、全職員が言葉使いや利用者を尊重した対応ができるよう努めています。排泄時の声掛けは直接的な言葉は避けたり、周りに配慮し耳元で伝えています。不適切な声掛けなどの対応があれば管理者が注意していますが、馴れから繰り返すことがあります。	接遇マナーについて学ぶ機会を持っていますが、全職員が利用者を尊重した言葉かけや対応が徹底できるよう更に取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい雰囲気を作り、問いかけをしながら、判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが一人一人の思いを尊重して無理強いせず支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定のできる人には自分で決めてもらっていますができない人には、さりげなく、支援させて頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設されている厨房から届いています。食後の食器洗いやおしぼりの回収は利用者がしている	法人の厨房で作られた食事を提供しており、厨房へは利用者の好みや希望を伝えています。月に1度利用者とカレー作りを楽しんだり、おやつレクリエーションの日を設けタイ焼きやプリン等を作っています。また、回転寿司やレストランなどの外食を楽しむ事もあります。食事の際は音楽を流し職員が傍で見守ったり、弁当を持参した職員が利用者と一緒に食事を摂ることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作った食事量や水分量を記録して職員で情報を共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの能力に応じて見守り、声掛け、介助を行っている。口腔状態は医師や衛生士の定期検診や受診により管理されている		

グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切に一人ひとりの状態に応じてパットや紙パンツを使用している	排泄チェック表を参考にしたり、その日の利用者の体調や訴えがあった際に個々に合わせて声掛けや誘導を行っています。適切な支援の結果、失敗が減りほぼ自立された利用者もいます。日中はトイレを利用し、夜間のみポータブルトイレを利用する方など、個々の習慣にも配慮し自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には毎朝ヨーグルトと牛乳を提供し自然排泄を促すようにしている。水分摂取にも心懸けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて支援している。浴槽に入れない場合はシャワー浴、足浴で対応している。2人介助での入浴も行っている	毎日入浴準備を行い、職員と1対1でコミュニケーションを図りながらゆっくり入ってもらっています。週に2回を目安にしていますが、希望があれば2回以上や夜間の入浴も希望に応じて支援したいと考えています。冬は脱衣所を温めて衣類を脱ぎやすくしたり、季節湯の入浴剤などを用いて入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて日中休息がとれるように配慮している。眠れない時には、ホットミルクやお茶や少しのおやつを提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を利用者別にファイルし職員全員が把握できるようにしている。新しく薬が処方された場合は特に気をつけるように職員間で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後の2回、様々なレクリエーションをおこない楽しみを作っている。嗜好品は必要に応じて職員が買ってきている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって散歩はしているが美容院や外食などは、車の手配が必要なため予定をたてて行っている	天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、南に面した玄関前で気分転換しています。ドライブや買い物、足湯などに出かけ楽しんでもらったり、季節に応じた初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけています。行事によっては家族にも声をかけ一緒に外出を楽しんでもらっています。個別の希望を聞いて出かけることもあり、日頃から外出の機会が多く持てるよう支援しています。	



グループホームグレース(西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売を利用してパンやジュースの購入ができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は家族との連絡を自由にとっておられ手紙のやり取りもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の移ろいが見える場所にダイニングテーブルを設置して季節を感じてもらっている。利用者様の作品を壁に飾り安心感にもつなげている	豊かな自然が眺められるリビングは、四季折々の景色を楽しめるよう窓辺にソファを配置したり、季節毎の飾り付けや大きく見やすい行事の写真などを飾り、家族の来訪時には一緒に見てもらっています。玄関スペースや広いリビングは居場所を選べるようソファを配置したり、歩行器や車いすの利用者が動きやすいよう動線にも配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーにやダイニングに座り話をしたりテレビを観たり玄関前の椅子に腰かけたり自室に戻り針仕事をしたり自由にすごしていただけるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で大切にされていたアルバム、や人形、家具などを持ち込んでもらっている	洗面台やベット、タンス、机などが備え付けられた居室は和室と洋室があり、家族が準備した暖簾などを掛ける方もいます。利用者はカーペットを敷いたり、大事に使ってきた姿見やテレビ、小振りの筆筒などを持参し、其々過ごし易いよう配置したり、大切な仏壇や家族の写真、趣味の作品などを飾っています。毎朝窓を開けて換気と掃除を行い清潔に保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっていて車椅子や歩行器で安全に移動でき手すりもフロアー、トイレ、浴槽などに設置している。お手洗いなど表示してわかりやすくしている。		